



がんセンターたより

病院機能評価

「一般病院3 (機能種別評価項目3rdG:Ver.3.0)」 の認定を取得しました

当センターは、2024年7月12日付で「一般病院3 (機能種別評価項目3rdG:Ver.3.0)」の認定を取得しました。病院機能評価は、公益財団法人日本医療機能評価機構が、病院全体の運営や医療の質について、第三者の中立的、科学的、専門的な立場から審査を行う制度です。

この評価には、病院の規模や機能に応じた7つの区分があり、当センターが取得した「一般病院3」は、高度な医療提供、医療技術の開発・評価、そして医療に関する研修を実施する病院として、特定機能病院や大学病院本院などに求められる基準を満たす病院に与えられます。

当センターはこれまでも、神奈川県のがん医療の中核医療機関として、県内の医療機関の皆様と連携をはかり、県民に最良のがん医療を提供することを病院の使命として取り組んでまいりました。今回の認定は、その取組が一定の成果を挙げたものと考えておりますが、これを新たなスタートとし、今後も職員一丸となって更なる医療の質の向上に努めてまいります。

今後ともご支援と、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。



新たに保険収載された重粒子線治療について

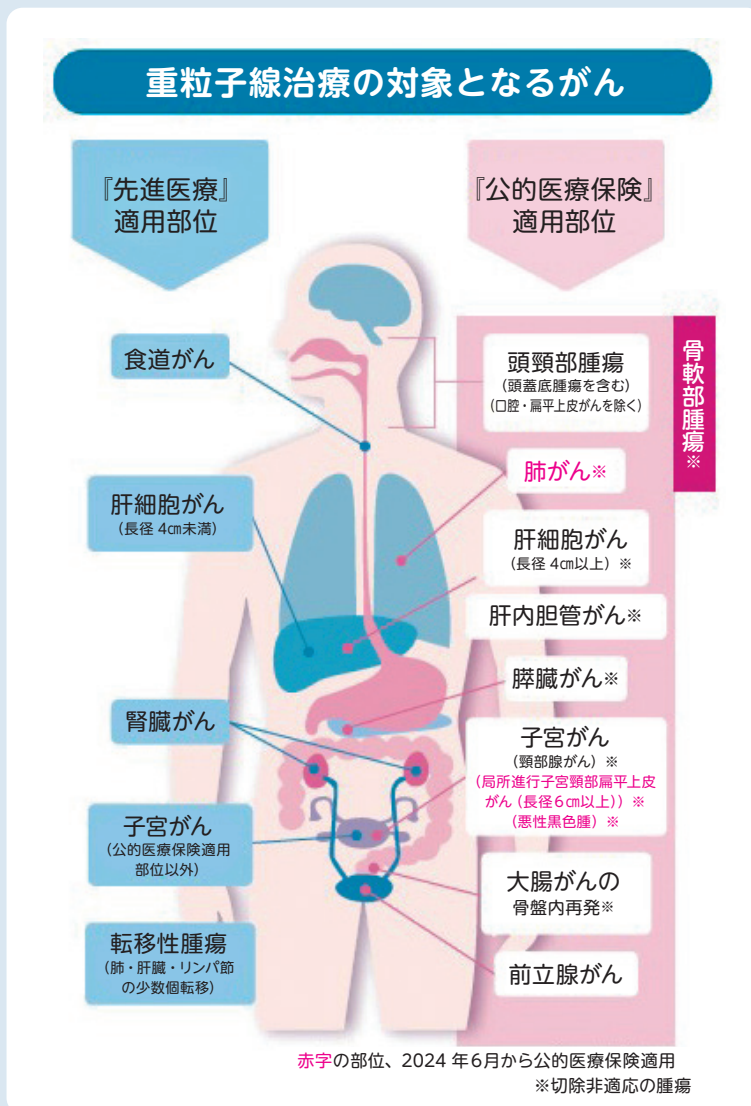
放射線治療科（重粒子線治療）部長 加藤 弘之

当センターには、日本国内7施設のみで行える重粒子線治療が導入されています。

重粒子線治療は、体を切ることなく根治的がん治療が行える、患者さんの体に負担の少ない治療方法ですが、従来、治療を希望する患者さん自身に金銭的負担をいただく先進医療という制度で行われていました。

近年、徐々に保険診療の適応となり、他の診療と同等の患者さんの金銭負担で治療が行えるようになっていきます。

2024年6月からは、早期肺がん、大きな子宮頸部扁平上皮がんが新たな保険適応疾患に加わりました。現在、骨軟部腫瘍、頭頸部がん、早期肺がん、大きな肝細胞がん、肝内胆管がん、膵臓がん、大腸がん術後骨盤内再発、子宮頸部腺がん、前立腺がんを保険診療で行っています（図）。これ以外のI期食道がん、進行期肺がんや、大きさが規定外の肝細胞癌、孤発性の肺転移、肝転移、リンパ節転移などについては、先進医療として行っています。適応には細かい規定がありますので、治療を検討したい患者さんがいらっしゃる場合には、重粒子線治療予約までご連絡ください。



重粒子線治療のご案内 ————— がん種によって申込方法が異なります。下記、予約方法をご確認ください。

予約方法

✓ **前立腺がんについて**

患者さん 医療機関

泌尿器科重粒子外来を受診となります。下記のことを準備し、重粒子線治療予約(がん相談支援センター内)にご連絡ください。重粒子線治療の可否は、受診後、前立腺センターのカンファレンスで決定します。結果は再診時に患者さんへお伝えします。

- 準備するもの
- 紹介状(診療情報提供書)
 - CD-ROM(CT、MRIなどの診断画像データ)
 - 採血データ
 - 読影レポート(可能であれば)
 - プレパレート 及び 病理診断報告書

✓ **膵臓がん・肝臓がんについて**

患者さん 医療機関

消化器内科(肝胆膵)を受診となります。下記のことを準備し、重粒子線治療予約(がん相談支援センター内)にご連絡ください。重粒子線治療の可否は受診後、消化器内科(肝胆膵)のカンファレンスで決定します。結果は再診時に患者さんへお伝えします。

- 準備するもの
- 紹介状(診療情報提供書)
 - CD-ROM(CT、MRIなどの診断画像データ)
 - 読影レポート(可能であれば)
 - 採血データ

✓ **骨軟部腫瘍について**

医療機関

骨軟部腫瘍外科を受診となります。下記のことをがん相談支援センターに郵送してください。

- 準備するもの
- 紹介状(診療情報提供書)
 - CD-ROM(CT、MRIなどの診断画像データ)
 - 採血データ

【郵送先】
〒241-8515 神奈川県横浜市旭区中尾2-3-2
神奈川県立がんセンター がん相談支援センター(重粒子線治療受付) 行

✓ **前立腺がん、膵臓がん・肝臓がん、骨軟部腫瘍以外のがん**

医療機関

紹介元医療機関から、下記のことを重粒子線治療予約へFAX(045-520-2215)してください。

- 準備するもの
- 紹介状(診療情報提供書)
 - 重粒子線治療 相談申込書(WORD) ※ホームページ参照

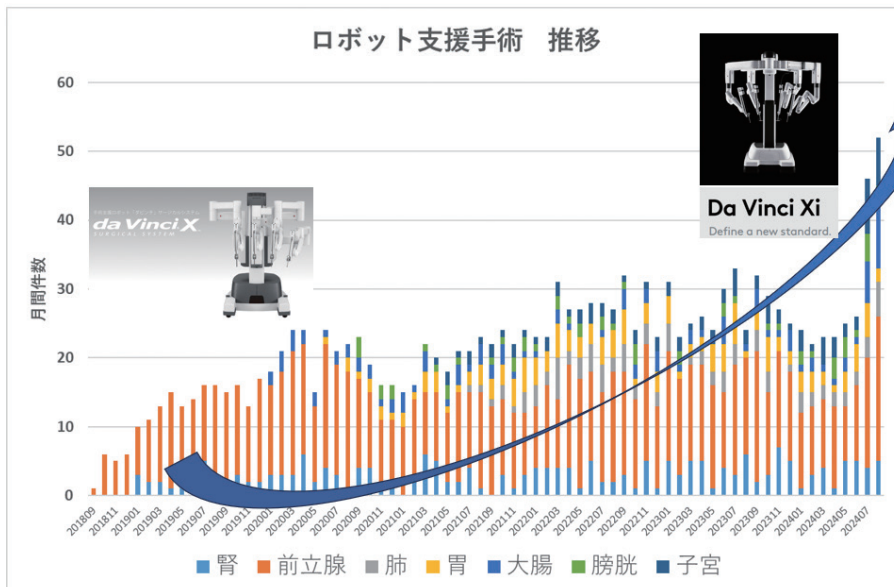
重粒子線治療予約
(がん相談支援センター内)

TEL 045-520-2225 FAX 045-520-2215

相談対応 平日(土日祝を除く) 9:00~16:00

手術支援ロボット2台目導入

当センターでは、2018年からロボット支援手術を開始、昨年度は300件を超えるロボット支援手術を行いました。1台当たりの件数としては全国トップクラスであり、待機期間の長さが課題でした。この7月から2台目のロボットが新たに稼働開始し、待機期間の改善に加え、膵臓がんなど新規手術の導入も可能となりました。これまで以上に精度の高い手術を幅広く待たずに提供し、患者さんのお役に立てる体制ができましたので、報告させていただきます。



診 療 科 紹 介

サルコーマセンター

サルコーマセンター長兼骨軟部腫瘍外科部長 竹山 昌伸

肉腫(サルコーマ)は希少がんであり、その診療の多くが整形外科(当センターでは骨軟部腫瘍外科)にて担当されてきました。しかし、サルコーマには病理診断が多彩で診断が困難なケースや、全身に発症するためしばしば担当科の枠に収まらない病態が認められます。腹腔内・後腹膜発生や臓器内発生(臓器原発)のサルコーマの場合は今まで全国的に紹介された診療科が治療を担当する状況でした。そのため、サルコーマ診療には集約化が重要であると考えられています。当センターでは、診療科横断的なサルコーマ診療体制充実のため、2023年度にサルコーマセンターを設置しました。骨軟部腫瘍外科を中心に外科各科、腫瘍内科、放射線診断・IVR科、放射線治療科さらには病理診断科が協力し、肉腫診療がone stopで提供できるように体制を整えています。



局所治療として手術療法(患肢温存には罹患骨処理骨による生物学的再建も検討いたします。)に加え、重粒子線治療が単一施設内で可能なのは当センターの大きな特徴です(重粒子線治療のための吸収性スパーサー留置もサルコーマセンターにて担当しています)。

化学療法では既存の抗がん剤のほか、がんゲノム診療拠点病院として遺伝子パネル検査を通じ、新規薬物療法への橋渡しが可能です。また症例が集約されることで後腹膜軟部肉腫の国際共同臨床試験への参画などサルコーマ診療の標準化にもより寄与できるようになってきています。

いわゆる四肢体幹発生の肉腫以外にも後腹膜発生、臓器発生、頭頸部発生など発生部位により治療困難なケースや初期治療後肉腫と診断されたケース、また治療前後の症例の重粒子線治療の適否や適切な診療科への橋渡しなどのコンサルテーションの窓口としてもご利用ください。



サルコーマセンター長 兼 骨軟部腫瘍外科部長 竹山 昌伸

Profile

<専門分野> 骨軟部腫瘍 <専門医・認定医> 日本整形外科学会 専門医
 <主な経歴>
 神奈川県立がんセンター 骨軟部腫瘍外科 修練医
 藤沢市民病院 整形外科
 神奈川県立がんセンター 骨軟部腫瘍外科 医長
 横浜市立大学附属病院整形外科 診療講師

がんの正確な診断に役立つ画像処理技術の開発について

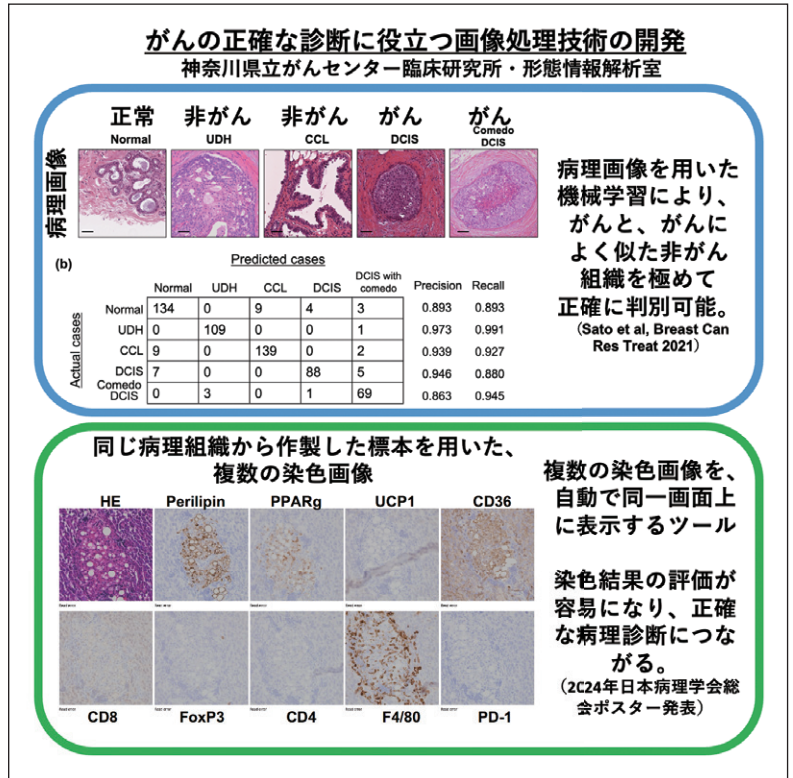
臨床研究所 形態情報解析室長 佐藤 慎哉

手術や検査で得られた患者さんのがん組織から、染色処理等を施して病理組織標本を作製し、標本を観察してがんの診断や治療選択に必要な情報提供を行う業務を、病理検査と言います。

臨床研究所・形態情報解析室では、病理検査に必須である病理組織標本の画像（病理画像）を用いて、がんの正確な診断に役立つ画像処理技術の開発を行っております。

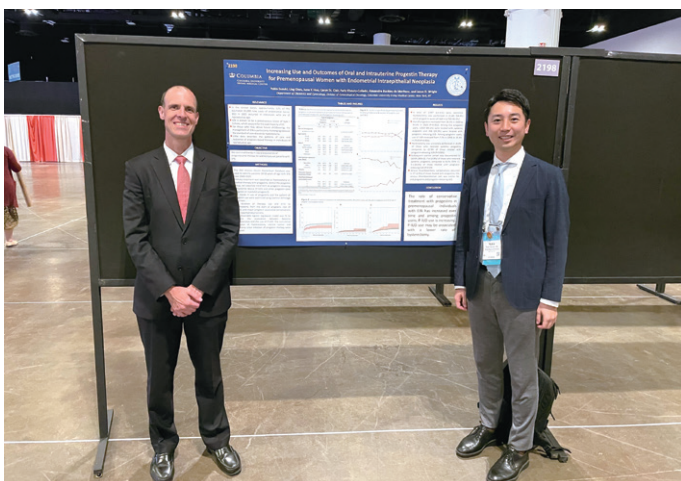
これまでに、千葉大学との共同研究により、病理画像のAI解析により、がんを、がんとよく似た良性組織から極めて正確に判別可能な方法を開発しました (Sato and Maki et al, Breast Cancer Res Treat. 2021)。またニコン社との共同研究により、デジタル化した病理画像を用いて、様々な染色結果を同一画面上に統合できる診断補助ツールを開発しました (特願 2024-033900)。

今後も、がんの診断・治療に有用な画像処理技術の開発を進めてまいります。



海外日本人研究者ネットワーク (UJA) 論文奨励賞受賞について

婦人科医長 鈴木 幸雄



UJA 論文賞はノーベル化学賞受賞者の根岸英一先生が世界で活躍する日本人研究者のために2014年に立ち上げられたものです。私は、当センターに赴任する前、2020年12月～2024年1月まで米コロンビア大学産婦人科の婦人科腫瘍部門で博士研究員としてDr. Jason D. Wrightに師事し、ヘルスサービス&アウトカムリサーチを行ってまいりました。今回の受賞論文研究はコロンビア大学で行っていたものです。若年子宮体癌患者における術後のホルモン補充療法

やQOL改善目的の非ホルモン療法の使用動向を米レセプトデータベースの処方歴を基に分析し、本来もっと重視されるはずのがんサバイバーシップにおいて支持療法が低利用であることを明らかにしました。治療後閉経となった若年がん患者さんにこれまでの知見を活かし、良質なサバイバーシップを提供していきたいと存じます。

☯ がんと東洋医学

東洋医学科部長 板倉 英俊

現在、がんを経験する人は人口の半数にのぼる時代となっています。東洋医学科では、がん治療のサポートやがんサバイバーのサポート、そして緩和ケアのための診療を行っています。

がん治療自体は日々進歩し、がんと共に生活しながら長期に生活できる時代になりつつあります。しかし、その一方で、治療中や治療後の生活において、身体的・精神的な辛さを感じる時間も増えているのが現状です。

がんに伴う苦痛や不安は一律のものではなく、その人の生き方や状況によりさまざまです。そのため、画一的な治療では生活の質（QOL）の改善が十分にできないことがあります。こうした個別のニーズに応えるために、東洋医学のアプローチが有効です。

東洋医学には、漢方薬治療と鍼灸治療があります。漢方薬治療では、医療用エキス剤という既製品を用いる方法と、煎じ薬を用いて個別に生薬を組み合わせるオーダーメイド治療の2つに分かれます。煎じ薬の提供に関しては、横浜薬科大学との協力により、院内での調剤ができる体制を整えました。

また、鍼灸治療は5年前から提供しており、痛みを伴わない鍼や、熱すぎないお灸を用いて、リラックスしながら体を癒す場を提供しています。鍼灸治療は毎週火曜と金曜に、鍼灸師が担当しています（ただし、鍼灸治療は自費診療）。

がんの治療過程やその後の生活の質を向上させるために、東洋医学をぜひご活用ください。



治験 ニュース

新規治療開発支援センターより



HPはこちらから

2024年9月現在、当院で実施中の治験は約224件、登録中の治験は72件です。登録中の治験一覧は、当センターのホームページに診療科別に掲載していますので、ぜひご活用ください。また、当センターは、横浜臨床研究ネットワークなど、地域の医療機関や研究機関との積極的な連携を推進しています。先生方のご支援とご協力があるからこそ、私たちは地域の皆様に質の高い医療を提供し続けることができます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。治験への参加についてのご相談は、「がん相談支援センター」までお問い合わせください。

地域医療連携懇親会の開催報告

地域連携室

2024年7月17日に地域の医療機関様へ向けた懇親会を開催しました。重粒子治療施設 i-Rock の見学、先端医療に関する講演ともにご好評をいただきました。いつもは、電話や紹介状の先にいる先生方に直接感謝をお伝えすることができ、「顔の見える連携」の大切さを改めて感じました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



新日本プロレス神奈川県がん撲滅チャリティー横浜大会にて、ご寄附をいただきました

病院長 酒井 リカ

2024年8月8日に横浜武道館で開催された「第18回 新日本プロレスがん撲滅チャリティー横浜大会」において、株式会社創様より当センターにご寄附をいただきました。

いただいたご寄附は、患者さんの療養環境の整備等に有効活用させていただきます。温かいご支援に心より感謝申し上げます。



ブラックジャックセミナー開催報告

副院長 伊藤 宏之

13回目のブラックジャックセミナーを8月24日に行いました。定員の倍を超える応募あり、中高生を中心に63人が当選し、ほぼ同数のご家族も集まりました。酒井病院長、岸田副院長はじめ医療局、看護局、医療技術部、事務など幅広い部門の職員が参加し、縫合実技・内視鏡手術・自動縫合器・超音波メス・手術室での手術体験・重粒子加速器見学・病理実習・肝臓超音波検査に加え、今回初めてロボット手術見学も行いました。最初は緊張した面持ちだった子どもたちですが、すぐに笑顔と驚きの声に変わりました。多くの質問とともに、感激と感謝の言葉も沢山頂きました。対象を高学年としたため、より深く集中し、理解も深められたようです。外科医の普段の生活、技量の上げ方から医学部入学に向けた勉強方法の質問など、意欲にあふれた子どもが多かった印象を持ちました。アンケートでも濃厚なコメントを山ほど頂戴しました。セミナーをきっかけに子ども自身が具体的な将来の職業像を描き始め、それに向けた就学意欲を見せたことなど、ご両親も感激したとの内容もありました。また午前中も非常勤やSPC含め職員向けに開放を行い、手術室や重粒子の加速器まで見学でき、当センターの質についてより理解を深めていただいたように感じました。

ロボット手術見学



縫合実習



病理実習



自動吻合器実習



重粒子加速器見学



地域連携室

セミナー・勉強会等のお知らせ

▶ 臨床腫瘍セミナーのご案内

- 形式** WEB 開催
- 時間** 17:30 ~ 18:30
- 対象** 医療従事者
- 定員** 100 名

● お申込みはこちら

右の 2 次元コードより、事前登録をお願い申し上げます。



開催スケジュール

2024年

12月19日(木) 「多発性骨髄腫」 血液腫瘍内科(腫瘍) 高橋 寛行

2025年

1月30日(木) 「緩和ケア総論」 緩和ケア内科 太田 周平

2月 6日(木) 「東洋医学」 東洋医学科 板倉 英俊

2月20日(木) 「病理診断学」 病理診断科 大久保 陽一郎

3月13日(木) 「婦人科腫瘍」 婦人科 近内 勝幸



POINT1

現役医師による解説

実際にごんセンターの外来診療や手術を担当する医師が講師を務めます！

POINT2

ご自宅や診療後でも参加可

WEB 開催なので、ご自宅や診療後のクリニックなど、場所を選ばずご参加いただけます！

POINT3

症例 & 研究データ

セミナーでは、ここでしか観れない貴重な臨床研究データや症例も！

編集後記

7W 病棟

2024年度 血液内科患者交流会開催のお知らせ

日時

2025年1月18日(土)
14:00~15:00
(日程変更の可能性あり)

開催方法

Zoomミーティングを利用したオンライン開催

参加対象

当院での造血幹細胞移植前後の患者・家族最大40名

参加方法

病院内ホームページに掲載予定。外来通院中の方には紙面で広告用紙を配布させていただきます。外来にもお知らせを掲示する予定です。



「xx年に一度の」この夏の異常気象で何度この言葉を聞いたことでしょうか。大自然の猛威の前に我々は無力です。翻って病気も人も千差万別、しばしば我々は予期せぬ事態に呆然とさせられます。いかに医療が進歩しても謙虚さを忘れず、不測の事態に備え、個々の患者さんに応じたきめ細やかな医療の提供が求められています。我々だけでなし得ることは限られており、皆様との連携が今まで以上に重要です。引き続きご支援よろしくお願い申し上げます。

副院長 地域連携室長
岸田 健

